

まつもとげんたろう
○松本源太郎 1859(安政6年)～1925年(大正14年)

- ・府中(現在の越前市)の生まれ。明治時代に活躍した哲学者、教育者。父の晩翠は、府中本多家の家老をつとめた。
- ・帝国大学の哲学科で学んだ直後、1886年(明治19)9月に東京の第一高等中学校(第一高等学校の前身、現在の東京大学教養部)で「嘱託教員」として「哲学」を担当、翌1887年9月には「史学・哲学」の「教諭」となる。
- ・1889年、松平康荘(松平春嶽の孫)の留学の監督役としてイギリスに渡り、松本自身もオックスフォード大学で学ぶ。
- ・1899年、熊本の第五高等学校の教頭に赴任。部下にいた夏目漱石をイギリス留学生に推薦。その後、山口高等学校長、学習院教授(学習院女子部長)などに就任。

○夏目漱石(本名：金之助) 1867年(慶応3年)–1916年(大正5年)

- ・小説家。英文学者。江戸牛込馬場下横町(東京都新宿区牛込喜久井町)生まれ。英文学者として東京帝大などで教鞭をとったのち、「吾輩は猫である」が好評を得て、東京朝日新聞社に専属作家としてむかえられる。
- ・多くの作品を著し、明治時代を代表する小説家である。

○正岡子規(本名：常規) 1867年(慶応3年)–1902年(明治35年)

- ・俳人、歌人。父は松山藩士。帝国大学文科大学中退。
- ・明治25年(1892)日本新聞社に入社、『日本』紙上を中心に文学活動を行い、俳句、短歌の革新運動を進め写生論を提唱。
- ・俳誌「ホトトギス」を指導。根岸短歌会を主宰。門下に高浜虚子、伊藤左千夫等。
- ・著作に句集「寒山落木」、歌集「竹の里歌」などがある。

はがやいち
○芳賀矢一 1867年(慶応3年)–1927年(昭和2年)

- ・国文学者。福井城下佐佳枝上町(浜町)生まれ。浜町の川口小学校に在籍中、1873年(明治6年)に新潟に引越す。東京帝大卒。東京帝大教授。國學院大学長
- ・明治中期から大正期にかけて東京帝大、國學院大で活躍した国文学者で、国定教科書の編纂にも携わった。
- ・1900年からの留学中にドイツで学んだ文献学(広義のドイツ学)の考え方や手法を国文学(江戸時代からの古学、古典学)に取り入れて「日本文献学」に発展させ、近代的な国文学研究の基礎を築き、「国文学の父」とも言われる。
- ・著書に「国文学読本」(立花銚三郎と共編)、「国文学史十講」、「国民性十論」など多数

「閻魔帳」および記載のある主な人物について（夏目漱石の友人や知人を中心に）

1888年(明治21)年9月～89年3月の成績原簿(当時は新年度開始が9月、終わりが7月)。

この帳面には、一期と二期の記載しかないため、松本が89年4月にイギリス留学に出るまでの時期のものと考えられる。

【記載のある人物】

- ・夏目金之助・・・その年の一月までは、養家の名字で「塩原」姓であったのが、この年度からは生家の「夏目」姓に変わっていることが分かる。
- ・正岡常規・・・正岡子規の本名。この学年のころ、漱石と親しくなるとされる。
- ・芳賀矢一・・・言語学、国文学が専門。留学時には、帝国大学助教授。帰国後に教授となる。福井市出身。今年度、こども歴史文化館で発見した漱石のはがきの宛先の人物。
- ・米山保三郎・・・漱石に、希望していた建築家ではなく、文学を目指すよう勧めた人物。『吾輩は猫である』の中に書かれる「天然居士」は米山を髣髴させるとされている。
- ・山川信次郎・・・帝国大学文科大学英文学科に進む。五高の英語教授として漱石の同僚となる。「草枕」のもとになった体験とされる小天温泉にいっしょに出かけた友人。漱石がイギリス留学から帰国したのちには、疎遠になる。
- ・柴野是公・・・養子となり、のちに「中村」姓となる。中村是公〔ヨシコト〕。友人たちは〔ゼコウ〕と呼んだという。満鉄総裁となる。漱石の長年にわたる友人。
- ・佐藤友熊・・・漱石が、中村是公に誘われて出かけた満洲朝鮮の旅行の折、旅順の警視総長になっており、再会した(1909年)。

- ・立花銑三郎…帝国大学哲学科卒業。学習院の教授になる。漱石、芳賀、藤代より一年早くイギリス、ドイツに留学。病を得て帰国の途中、ロンドンに停泊中の船中に漱石が見舞う。日本を間近にしたところで没した。『立花文学士遺稿』が編まれる。
- ・藺田宗恵 …芳賀、藤代らと同時期にドイツに留学。ドイツでの芳賀に日記にも名前が頻出する。仏教界の重鎮。
- ・太田達人 …帝国大学理科大学物理学科卒業。漱石の友人。『硝子戸の中』で語られている。各地の中学の校長を歴任。
- ・福原鏢二郎…漱石が博士号を辞退したときの、文部省専門学務局長。

※このほかに、中山再次郎(福井県出身)、中山小十郎(立命館創立者)、平岡定太郎(三島由紀夫の祖父、樺太庁長官)などの名も見られる。